

**新旭詩吟クラブ (新旭) 40周年**

代表者：中西勝見 (講師)

私たちのクラブは、一時20名近くの会員を擁するクラブでしたが、現在は5名で新旭町のほおじろ荘を拠点に活動しています。悠久の歴史の中で中国で生まれ、日本に伝わって文化の花を咲かせた漢詩を詩の意味や作者の心情等を理解しつつ吟じたり、また近年では万葉集等の和歌と俳句、新体詩等を和楽器だけではなく、オーケストラの演奏に合わせて、情感たっぷりに吟じること、クラブ員個々の声の色(音色)に合った詩歌を選び、じっくり詩を味わいながら詠うようにしています。コロナ流行拡大前の年、詩吟クラブに入会されたばかりの奥野博史さんが新旭文化祭の発表時に堂々と感情を込めて詩吟を発表され、クラブ員にとってもとても嬉しい思い出となりました。詩吟は難しいものではありません。皆さまも一度、新旭詩吟クラブにお声をかけていただき、どうぞ気楽にお越しください。お待ちしております。

観光物産プラザ開業5周年記念  
新旭文化祭に出演しました。**高島短歌クラブ (高島) 45周年**

代表者：小川まち江 / 講師：前川登代子

高島短歌クラブは、昭和51年、高島町文化協会設立に伴い7名のクラブ員で発足しました。発足から45年、当時からの会員3名の在籍のもと、現在は14名で月2回の歌会を中心に短歌を詠み続けています。歌会の1回は講師の指導を受け、後1回は会員相互で勉強しています。作品は、発足から20年間は毎年、その後は隔年に纏めて年刊歌集を発行しており、今年は第35号の発行となりました。また、春の吟行会や秋の観月歌会、新年歌会など場所を移動して歌の素材を見つけたりすることも楽しみのひとつです。作品の発表は、地域の文化祭や文化フェスティバル、高島公民館ロビー、近江高島駅などに展示していて、広く皆様に見て頂けるようにしています。このところ、会員が減少しており心細く思っておりましたが、また1人、2人と増え始め頼もしく思っています。歌の素材は身近な所にありますので、クラブが存続していくことを願い、これからも詠み続けていこうと思っています。



昨年、高島公民館ロビー展示の様子

**茶道クラブ (高島) 45周年**

代表者：久保真理子

昭和60年からのクラブの会計簿は残っていましたが、昭和51年、高島町文化協会発足当初から、旧高島公民館において茶道クラブは活動していたと聞いています。アイリッシュパーク新築時に立派な茶室も作られ、茶室の内装には、茶道の師であった故伊藤宗庵先生(円光寺住職)が携わられました。クラブ員は10名程いましたが、高齢等により現在は数人と少なくなりました。高島支部の新春子ども文化教室と文化祭の茶席は皆様の参加を得て続けてきました。最近、茶道の点前所作を年齢のせいか忘れやすくなりましたが、月2回、第2・第4木曜日、13時30分より、師を迎えずにクラブ員相互で教え合いながら稽古しています。最近、久々に1名入会されて、とても嬉しく思っております。コロナ終息後は、茶室見学等も予定しております。是非、お気軽に茶室を覗いてみてください。お待ちしております。



高島公民館茶室にて

**編集後記**

今回の東京オリンピック・パラリンピックは無観客とはいえ、連日のメダルラッシュをテレビで楽しむことができました。試合直後のインタビューで「コロナ禍でのオリンピック開催に感謝します」と答える選手が多く、私自身も周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず日々過ごしたいなと改めて感じました。さて、今月号は新しい企画として、節目にあたる協会所属クラブの方々にご寄稿頂き、なかなか聞けないクラブの歴史等をご紹介することができ読み応えのある誌面になったかなと思っています。これからも皆様のご協力を頂き継続していきたいです。我慢がつかももの新しい生活様式には慣れましたが、そろそろ普通の生活様式に戻りたいものです。(事務局)

文化情報やイベント告知などをホームページに掲載しています。事務局まで情報をお寄せください。

**ホームページアドレス**<http://bunkyo-takashima.shiga.jp>**メールアドレス**[info@bunkyo-takashima.shiga.jp](mailto:info@bunkyo-takashima.shiga.jp)

高島市文化協会事務局

9時~16時(火・土・日) 祝日休み・祝翌日休み